

対象年度		令和 3年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート										
事務事業名		新たな公共交通システムの検討事業						予算事業名		市内巡回バス運行事業費				
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分						
				02	01	16	1101	政策経費	根拠法令					
総合計画体系		2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)						事業の区分		主要事業				
		2-3便利で快適に移動できるまちづくり(道路・公共交通)												
		②公共交通ネットワークの強化						担当課係等		企画政策課				
		2新たな公共交通システムの検討								公共交通整備係				
事業期間		継続 (年度～ 年度)												
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
交通弱者の交通環境改善や、結城市への、または市外へのアクセス性の向上、市内交通の利便性の向上による地域活性化を図る。							当市では路線バスがほとんど無く、駅から離れると交通手段はほぼ自家用車に限られる。高齢化と単身世帯化の進行で、交通弱者は今後さらに増加すると思われることから、新たな公共交通システムの構築が求められている。							
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】							
・巡回バスの運用について、今後の方針や課題についての検討 ・デマンドタクシーなど新たな公共交通システムの検討 ・交通弱者のニーズの把握 ・近隣市との連携							結城市民、結城市への来訪者							
⇒令和3年度から市内巡回バス運行事業へ統合予定							【事業をとりまく環境の変化】							
							・国の方針として、公共交通とまちづくりを一体的に考えた地域公共交通に取り組むことが求められている。 ・近年は、幹線道路沿いに大型店舗の出店が進んでいることから、自家用車のない高齢者などは不便を強いられている状況にある。 ・昨今は、小売店において配達サービスが広まっており、その動向も踏まえて、交通弱者のニーズを把握し、環境改善を検討していく必要がある。							
【令和3年度 事業内容】				【令和4年度 事業内容】				【令和5年度 事業内容】						
地域公共交通計画の策定														

■事業費

		R01年度		R02年度								
財源内訳	国庫支出金	0		0								
	県支出金	0		0								
	地方債	0		0								
	その他	0		0								
	一般財源	24		105								
歳入計(千円)		24		105								
歳出内訳	節(番号+名称)		金額(千円)		金額(千円)							
	07 報償費		24		99							
	10 需用費		0		6							
歳出計(千円)(A)		24		105								
伸び率(%)				337.50								
備考	総合計画79ページ 予算書 ページ											

令和元年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R01年度	R02年度	R03年度
活動 指標	検討会議の開催	回	目標	3.00	3.00	3.00
			実績	1.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	地域公共交通基礎調査報告書作成	完了	目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	高齢者を中心とした交通弱者の増加に伴い、必要性は高まっている。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	検討を進めるにあたっては、公共性を重視するため妥当である。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	課題の抽出及びニーズの把握にあたっては、関係課と連携し協議会の設立なども視野に入れる必要がある。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	当事業は直ちに成果を期待できるものではないため、効率性ととともに継続的に組織活動を実施することが重視される。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	交通弱者を対象としているため、受益者は偏るが、福祉の観点からも公共性は高い。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	現状巡回バスの運行にとどまっており、新たな交通手段の導入には至っていない。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	現状の巡回バスの運行形態では、安全管理面等で限界がきているため、早急に民間委託を実施する。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
市内巡回バスは、年間利用者数も右肩上がりで推移していることから、市民の移動手段として定着しつつある。しかしながら、バス停まで歩いていけない高齢者も一定数いることから、ラストワンマイルの移動手段をどう確保するかが課題である。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
巡回バスの運行を中心に、巡回バスではカバーできない部分の移動支援策として、ボランティアの活用やタクシーチケットの配布など、本市の地域性にあった施策の調査検討を進めていく必要がある。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ■ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置 方向性の具体的内容 免許返納等の課題もあり、公共交通に関するニーズは年々の高まっている。引き続き市内巡回バスと併せ、新たな公共交通の在り方等を検討していく。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置 企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。